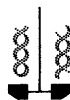


会 報



平成12年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成12年度大会が平成12年8月3日（木）～5日（土）の3日間、北海道大学にて開催された。例年の年次大会は秋が一般的であるが、今回は北海道ということと、大学の教室の空き具合の関係で、この時期の開催となった。東北・北海道両地区を拠点とする北日本支部が平成9年度に発足し、現支部長（富田房男）が担当して丸3年が経過し、今回、関東以北で初めての年次大会が開かれる運びとなった。昨年の大会からの間隔が10カ月しかないこともあって、講演申込件数の減少が懸念されたが、一般講演542件、シンポジウム16テーマ101件、招待講演3件、受賞講演5件、合わせて651件と、昨年の622件を上回る過去最高の講演件数となった。一方、参加者数は正会員688名、学生会員308名、非会員120名、合計1,116名であり、これは昨年の1,374名から258名の減少であった。事前登録者数と講演件数がほぼ一致したことから、演者以外の方は事前登録をされなかったことが窺われた。やはり遠路であることと、不景気が影響しているものと考えられた。講演会場数は15、展示会には20社の出展協力があつた。当初予定していた旧教養部の校舎が改修工事により使えなかったため、大会運営は農学部、文系校舎、クラーク会館の3カ所に分散して行われたが、さしたる混乱もなく、全体として盛況であった。

第1日目には、午前中に授賞式があり、吉田敏臣会長の挨拶、授賞選考経過報告に続き、生物工学会賞（小林 猛氏）、技術賞（小原仁実氏ら）、江田賞（善本裕之氏）、斎藤賞（神崎 浩氏）、照井賞（青柳秀紀氏）、論文賞（石倉清秀氏ら、堀内淳一氏ら、町田清隆氏ら、海江田優氏ら）各賞が授与された。また名誉会員として土佐哲也氏が推戴された。写真撮影の後、小林 猛氏より「生物

化学工学の新しい研究領域の開拓」、続いて小原仁実氏より「グルコースからポリ L-乳酸を工業的に製造する方法の開発」と題する受賞講演が行われた。初日午後より、3日目午前まで一般講演、シンポジウム、その他の受賞講演、招待講演が予定通り盛会裡に行われた。以下に今大会の特記事項を列記する。

1) 会場について：昨年の関西大学での大会に比べると、会場の分散、迷路のような校舎内部、机や椅子の老朽化など、国立学校の設備の悪さに戸惑いや、落胆をされた方も多かったのではと想像される。北海道といえども、ここ数年夏の暑さは厳しく、冷房無しの講演会場では汗だくになりながら、文字通り熱のこもった講演、討論が展開された。冷房のない環境での開催時期はできることならもう少しさわやかな時期が良いと思われる。会場の大きさと参加者数の関係はどの会場も問題なかった。

2) 電子登録関係：昨年に引き続き、発表の登録にはオンラインによる登録と郵送登録の両者を併用した。内訳はオンライン登録459件（全体の85%）に対し、郵送分は83件であった。登録に際しての目立ったトラブルはなかったようである。

3) シンポジウム：今大会ではシンポジウムの件数が16件と、例年に比べて突出して多かったことが大きな特徴である。これは北日本支部の方針でもあるが、「多くの方に参加していただき、多方面からの議論を深めること」を念頭に置いたものである。シンポジウムの演者の方には、非会員の方もいらっしゃったようであるが、シンポジウム担当者、オーガナイザーのご努力で、これを機に会員になっていただけた例もあり、学会の認知度の上昇と活性化につながった。

4) 懇親会・ミキサー：懇話会は第2日目の夕方に開催された。大学内の生協食堂を使った関係で、会場の雰囲気は質素なものであったが、料理や飲料は北海道ならではの品揃えであった。特にこの諸般厳しき折に、食品、ビール、お酒、ソフトドリンクをご提供いただいた関連企業の方々には、厚く御礼申し上げます。第1日目夕方に開催されたミキサーは、今大会の目玉企画の一つで、若手会・交流会と合同で開催され、格安の参加費で気軽に交流できる場として好評を博していた。

5) 韓国からの参加：今大会では、韓国からは招待講演の3件以外に、9件の一般講演があり、ご夫妻で参加された方も多く、総勢20名以上の方が札幌にお出でになった。学会事務局によれば、例年に比べて異例の多さで、これも札幌の観光都市としての人気の高さによるためらしい。

今回の大会は、ごく限られた人数の、しかも未経験のスタッフが、学会事務局の力添えと、前回の大会を担当されました阪大の実行委員の方々の助言により、何とか準備・運営を務めさせていただいた。これに起因するたくさんの方の不手際、ご迷惑があったと反省しております。この場をお借りして、お詫び申し上げます。しかし、この時期にこれだけの方にお運びいただけましたことは、初めての札幌大会としては成功だったと思われます。このことは、結局は参加者の方々の熱意によるものであり、遠路お出でいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

（文責 横田 篤）



受賞のみなさん

平成12年度第1回 和文誌編集委員会議事録

1. 日 時：平成12年8月3日（木）12:00～13:00
2. 場 所：北大・経済学部演習室6（札幌市北区）
3. 出席者：新名 惇彦（編集委員長）、福岡英一郎（副委員長）
編集委員：芦刈 俊彦・出井 晶子・江崎 聡
片倉 啓雄・*川崎 浩子・阪井 康能
*鈴木 伸昭・園元 謙二・*高田 洋樹
中嶋 幹男・吉田 和哉
- 支 部：田中 重信・松本 邦男・河合 啓一
岸本 通雅・*疋田 正喜
新 隆志（代理：大庭理一郎）

バイオメディア：青柳 秀紀・赤塚 浩之・*浅野 泰久
*池 道彦・*内山 圭司・*桂樹 徹
*加藤 高明・黒澤 尋・黒瀬 直孝
*水津 哲義・*鈴木 市郎・中山 亨
*橋本 博之・*溝口 晴彦・*三吉 新介

陪 席 者：吉田 敏臣（会長）・*西山 徹（副会長）
塩谷 捨明（理事）（*委任状）

4. 議題および審議内容

吉田会長のあいさつ後、議事に入った。

1) 平成12年度編集状況報告

4月から6月までの状況は、概ね順調である。

2) 本年度編集計画は、概ね順調である。

和文誌についての意見

- ・新名委員長は、予算の関係で和文誌が薄くなっているが、今後は増頁の方向でいきたいと述べた。
- ・福岡副委員長は、原報文に限らず講座、レター、資料の分野の投稿もお願いした。
- ・テクノロジーサロンについて、78巻5号掲載の見本を紹介し、今後は2色刷りにする方向であるとの説明があった。また中嶋委員より5号掲載の記事は好評で、かなりの引き合いがあったことが報告された。
- ・バイオメディアについては、和文誌のなかでも特に評判がよいとの報告があった。園元幹事は、この読者層を修士課程を対象とすることを念頭において、レベルを落とすのではなく表現をやさしくして他の分野の人にもわかるように執筆をするよう提案した。
- ・片倉委員は、GERMINATIONについて「BTF事故の話」以降の企画応募を依頼した。

3) 常任理事・支部長会議の報告

新名委員長より定款の細則規定の改正（案）について、現行の細則17条、18条および第19条の「編集委員25名以内」とあるのは現状にそぐわないので、理事会で改定を検討中である。

4) その他

- ・昨年10月号より始めたモニターについて、今後は毎月ではなく半年に1回程度にし、また現在のモニター制度を1年間で

終了（10月）することにした。

- ・委員長は、「2000年特別号」の公募で決定した表紙の披露ならびに会員には無料配布の予定であることを報告した。

第1回英文誌編集委員会議事録

1. 日 時：平成12年8月3日（木）12時～13時
2. 場 所：北海道大学クラーク会館 集会室
3. 出席者：編集委員長：加藤 暢夫
委 員：川崎 東彦・秋田 修・江崎 信芳
太田口和久・金川 貴博・金子 嘉信
神崎 浩・鈴木健一朗・高木 睦
中野 秀雄・長棟 輝行・福田 秀樹
村田 幸作・築瀬 英司・山田 隆
横田 篤・*伊藤 信・*小林 達彦
*新名 惇彦・*宮本 和久
- 副会長：谷 吉樹
（*印 委任状）

4. 議事の経過および結果

1) 平成12年度上半期編集状況

・加藤委員長から投稿数、掲載数ともに順調に推移しているとの報告があった。

2) 本年度編集計画

委員長より、英文誌（以下JBB）の投稿から掲載までの期間を短縮する方策が提案された。次いで、このことは、本編集委員会の発足時（平成11年6月）に確認した以下の編集に関する基本的事項を変えるものではないことを確認した。

- ・審査終了までの過程は各編集委員による責任編集制とする。
- ・オリジナリティーの高い論文は、できるだけ掲載する方向で審査する。
- ・Noteの頁数を厳守する。
- ・掲載までの期間をできるだけ短縮する。

議論の結果、以下のことをできるだけ速やかに実行に移すことを確認した。

- ・掲載期間の短縮を、編集作業の中でルーチン化して実現する。
- ・審査の中立性と透明性を明確にするため、当委員会での準備が整った時点で、この提案の主旨を生物工学会誌に掲載し、学会員の理解を得る。

提案の具体的な内容は以下のとおりである。

- ・投稿論文に対しては、担当編集委員の責任で、できるだけ初審で掲載可否の方向を明確にする。
- ・著者の了解が得られた場合には、著者とのやり取りはFAXで行う。
- ・査読者に、審査依頼の都度、審査の迅速化をお願いする文書を添付する。
- ・審査が終了した論文に対する英文査読業務を効率化する。
- ・印刷業務の迅速化のため、著者からの最終原稿は、図も含め

て電子媒体（MOあるいはZip）によるものも受け付ける。

- ・印刷にあたっては、現在検討されている電子ジャーナリズムに対応できる製版ソフトを使用するようにする。
- ・今回の方策は、従来の編集工程を全面的に変更するものではなく、質の高い論文が早く掲載されることを意図したもので、従来と同様のものについては、従来通りの掲載期間を維持する。
- ・投稿規定を上の方策に従ったものに改訂する。

3) その他

1. Review について：原稿の依頼状況が報告され、引き続き、review 原稿の集積に努めることとした。
2. 電子ジャーナリズム：電子情報委員会の川崎東彦委員長より、JBB の電子ジャーナリズムが常任理事・支部長会議で了解された旨報告があった。電子ジャーナリズムは、最終的には投稿から掲載まで、全て電子的媒体を使って行われることになるが、当面は印刷された雑誌がインターネット上で開示されることを意味する。

平成12年度 第3回理事会議事録

1. 日 時：平成12年8月4日（金）12時～13時
2. 場 所：北海道大学 クラーク会館10号室
札幌市北区北9条西9丁目（TEL. 011-706-2943）
3. 出席者：吉田 敏臣・谷 吉樹・西山 徹
飯島 信司・石川 雄章・*今安 聡
*五十嵐泰夫・江崎 信芳・大竹 久夫
加藤 暢夫・川崎 東彦・*北村 勲平
木田 建次・木下 晋一・*向阪 正信
塩谷 捨明・新名 惇彦・隅野 靖弘
原島 俊・松永 是
監 事：永見 憲三・*松村 正利
陪席者：富田 房男（当期大会実行委員長）
天野 義文（次期大会実行委員長）
（*印 委任状）
4. 議事の経過及び結果

塩谷捨明庶務担当理事は、理事出席数（本人出席16名、委任状4名）を確認して理事会の成立を宣した。続いて吉田敏臣会長は、今期大会および次期大会の両実行委員長の陪席を謝し、議事録署名人に塩谷捨明、原島 俊の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成12年度事業報告および会計報告承認に関する件

庶務・事業、編集および会計報告：塩谷捨明庶務担当理事は、事業報告は本来それぞれの担当理事が報告すべきところであるが、事業の消化が3ヶ月と短期間のため、一括して資料に基づいて報告することの了承を得て、全ての事業報告を行った。

議長は、事業報告について意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて報告の通り承認した。

第2号議事 次期評議員候補者選考委員会に関する件

塩谷理事は、平成13年6月1日に始まる次期評議員の選出について、細則第18条の通り評議員候補者選考委員会を組織して、候補者を推薦しなければならないが、前例に従って常任理事会が、選考委員会を務めることとしたい。なお、候補者として各支部より所属正会員数に比例して計100名を推薦していただき、これをもとに選考委員会で計120名以内を候補者として決めることとしたいと提案した。

議長は、第2号議事の説明について意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて原案の通り承認した。

第3号議事 代議員選挙に関する件

塩谷理事は、去る5月に開催された総会において代議員制度を設けることが承認されたが、その代議員の選出について資料に基づいて以下の通り2つの提案説明を行った。1):イ) 代議員は支部会員数に比例し、選挙は支部単位で行う ロ) 選挙までのタイムスケジュール 2) 細則第10条に次回総会で選挙の実施要領を含めるよう改正する。

議長は、第3号議事の提案説明について意見を求めたところ、実施要領については全員異議なく承認された。細則については、ほぼ了承されたが、次回理事会で諮ることとした。

第4号議事 編集委員会の組織と細則改正に関する件

塩谷理事は、資料に基づいて編集委員会に関する細則（細則第17条、18条、19条）が現状の会議運営に合致していないので、資料の通り改めたいと以下の通り提案説明を行った。(1) 和文誌、英文誌および電子情報の諸編集委員会を編集委員会と称し、委員を50名以内とする。(2) 和文誌の論文担当委員制度を廃止し、和文誌編集委員長および副編集委員長が論文担当を兼ねることとする。

議長は、第4号議事の説明について意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて原案の通り承認した。ただし、細則第17条の編集委員数25名を50名に変更する細則改正は総会承認事項であり、次回の総会に諮ることとした。

第5号議事 創立80周年記念事業計画に関する件

谷副会長は、本会は平成14年に創立80周年を迎えるが、過去の周年記念と同様に学会の活性化や斯学業界のバイオテクノロジー啓蒙に寄与・貢献できる記念事業を行いたい。そのために記念事業の準備委員会を発足して事業の企画運営の立案を作成したいと提案説明を行った。

議長は、第5号議事の説明について意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて原案の通り準備委員会を設置することを承認した。

第6号議事 電子情報化に関する件

川崎および原島両理事は、資料に基づいて以下の通り分担して報告した。(1) ホームページを刷新したこと、およびデータは毎月更新することにした。(2) 各支部長に依頼して得られたホームページデータ（119件）は、リンクを張り、分類し、ネットワーク化した。さらに検索システムも構築中である。しかし、公開するには全体の統一など、さらに整備する必要がある、各支部長に情報収

集も含めて再度改訂を依頼する予定である。

また、資料に基づいて以下について検討を依頼した。(1)大会プログラム検索システム構築に要する費用(初年度費用134万円)の新たな負担の対応について(2)英文誌全文をサイエンスダイレクト(エルゼビア社が運営する電子ジャーナルの集合体)およびJ-stage(科学技術振興事業団が運営するサイト)に電子登録することについて、当電子化委員会は検討を要請されたが他学会の動向および時代の趨勢として両方に加盟することを答申した。

議長は、第6号議事の説明について意見を求めたところ、(1)のシステム構築費用は、他社の費用と比較検討すること(2)の電子ジャーナル化は時代の要請であり、推進しなければならないので答申を尊重し承認する。しかし、エルゼビア社との販売契約および本会が要求する付帯条件の交渉に当たっては、庶務理事を交えて慎重に進めることとした。

第7号議事 その他

(1)平成12年5月1日から平成12年7月31日までに入会申請のあった正会員38名および学生会員107名は、全員承認された。(2)吉田会長は、2002年開催のGIMが韓国で開催されるので、応分の協力を要請した。

平成12年度 第2回評議員会議事録

1. 日 時：平成12年8月5日(土)12時30分～13時30分

2. 場 所：北海道大学 農学部 講堂4F

札幌市北区北9条西9丁目(TEL. 011-706-2943)

3. 出席者：浅野 泰久 氏 他37名

4. 議事の経過および結果

塩谷捨明庶務担当理事は、評議員の出席数(本人出席38名、委任状67名)を確認し評議員会の成立を宣した。定款により議長の選出について諮ったところ大嶋泰治氏を選出した。続いて吉田敏臣会長、大嶋泰治議長の挨拶があった後、議事録署名人に宮本和久、藤尾達郎の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成12年度事業報告および会計報告の承認に関する件

大嶋議長の指名により以下の通り4月から6月までの事業、編集および会計の状況報告があった。

イ) 庶務・事業報告：塩谷捨明庶務担当理事は、資料に基づいて本部と支部の事業、会議開催状況および会員異動状況について報告した。

ロ) 編集報告：加藤暢夫、新名惇彦両編集担当理事は、資料の英文・和文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。また、新名理事は本年末刊行予定の特集号編集の状況報告および表紙のデザインを披露した。

ハ) 会計報告：飯島信司会計担当理事は、資料に基づいて4月から6月までの収支状況について報告した。

議長は、以上の事業報告について意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて報告の通り承認した。

第2号議事 次期役員候補者推薦委員会に関する件

大嶋議長は、平成13年6月1日に始まる次期役員(理事、監事)は、細則第18条の通り評議員会内に設けられた10名以上からなる推薦委員会の推薦によらねばならないが、以下の通り前例に従って推薦委員を組織することを提案した。

全評議員は、10名の推薦委員を投票する。投票に基づいて、荒井基夫、岡崎光雄、田中渥夫、山縣民敏の諸氏および議長の大嶋が協議して地域、専門、学・業界および得票数などを配慮して、15名程度の推薦委員を選任する。

議長は、以上の提案説明に基づいて意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて提案の通り承認した。

第3号議事 80周年記念事業計画に関する件

谷副会長は、本会は平成14年に創立80周年を迎えるが、過去の周年記念と同様に学会の活性化や斯学業界のバイオテクノロジーの啓蒙に寄与・貢献できる記念事業を行うことが理事会で承認されたこと、および記念事業の準備委員会を発足して事業の具体案を立案中であることを報告するとともに、協力を要請した。

議長は、以上の報告に基づいて意見を求めたところ、全員異議なく拍手にて報告の通り承認した。

第4号議事 理事会報告

塩谷理事は、第3回理事会の決議事項を以下の通り報告した。

(1)代議員の選出実施要領について、支部正会員数に比例して推薦し、支部単位で投票する (2)次期評議員推薦委員会は、常任理事会が務め、評議員候補者は、支部正会員数に比例して100名程度推薦し、推薦委員会は120名以内最終調整し、推薦する (3)編集委員会に関する細則第17条を改正する (4)ホームページの情報欄を毎月更新する (5)大会プログラムを構築、充実し編集および会員サービスとする (6)英文誌の電子ジャーナル化を進める。